

平成30年度 成績概要書

課題コード（研究区分）： 4104-426500 （道受託研究）

1. 研究課題名と成果の要点

- 1) 研究成果名：平成30年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫
（研究課題名：平成30年度病害虫発生予察調査）
- 2) キーワード：病害虫発生予察、注意すべき病害虫、新発生病害虫
- 3) 成果の要約：平成30年度に実施した病害虫発生予察調査から、多発傾向にあった病害虫として11病害虫を示す。また、平成31年度に特に注意を要する病害虫として2病害虫について防除指導上の注意を喚起する。さらに、平成30年度に新たに発生を認めた病害虫として12病害虫（病害9、害虫3）を示す。

2. 研究機関名

- 1) 担当機関・部・グループ・担当者名：中央農試・病虫部・予察診断G・岩崎暁生、
中央農試・病虫部・クリーン病害虫G、上川農試・研究部・生産環境G、
道南農試・研究部・生産環境G、十勝農試・研究部・生産環境G、
北見農試・研究部・生産環境G、花・野菜技術センター・研究部・生産環境G
- 2) 共同研究機関（協力機関）：北海道農政部技術普及課、北海道農業研究センター、
北海道病害虫防除所、（全道農業改良普及センター）

3. 研究期間：平成30年度 （2018年度）

4. 研究概要

1) 研究の背景

病害虫の発生はその年の発生状況や気象経過のほか、前年の発生状況の影響を受けるため、効率的な病害虫防除を実施するためにはそれらを踏まえた全道的な情報が求められる。また、道内で未確認の病害虫が突発的に発生するため、迅速な対応が求められる。

2) 研究の目的

全道での病害虫発生状況を新発生病害虫も含めて記録し、これをもとに次年度に注意すべき病害虫を示して防除指導にあたっての注意を喚起する。

5. 研究内容

1) 農作物有害動植物の発生状況

- ・ねらい：農作物有害動植物の発生状況を記録する
- ・試験項目等：18作物・86病害虫の発生状況を調査

2) 突発および新発生病害虫の診断試験および調査

- ・ねらい：道内で新たに発生した病害虫を同定し記録する
- ・試験項目等：発生調査、再現試験、同定試験

6. 成果概要

1) 平成30年に多発～やや多発した病害虫

- (1) 水稻：イネミギワバエ
- (2) 秋まき小麦：赤さび病、赤かび病
- (3) 春まき小麦（春まき）：赤かび病
- (4) 春まき小麦（初冬まき）：赤かび病
- (5) 小豆：落葉病
- (6) ばれいしょ：軟腐病
- (7) たまねぎ：軟腐病
- (8) りんご：黒星病、斑点落葉病、腐らん病

2) 平成31年度に特に注意を要する病害虫

(1) りんごの黒星病

近年の多発により、越冬する感染源が多いと推測される。初期の防除、重点期の防除に加え、後期感染や果実感染を防ぐために、散布間隔を開けずに防除を実施する。同一系統の薬剤は連用せず、混合剤の使

用やローテーション散布を心がける。

(2) りんごの腐らん病

近年の多発傾向により、感染源が多いと推測される。また、夏季の台風による樹体損傷も本病の発生しやすい条件となるため、注意が必要である。り病部は1年を通じて胞子を分散させるため、園地を良く観察し、被害部を発見した場合は、早期に削り取り、ゆ合剤を塗布し、除去した被害部、剪定枝は園外に搬出する等、防除対策指針を励行する。

3) 新たに発生を認めた病害虫

- (1) 小麦のなまぐさ黒穂病（病原の追加）
- (2) てんさいの黄化病（病名の変更・病原の変更）
- (3) たまねぎの黒腐菌核病（新発生）
- (4) ねぎの根腐病（新発生）
- (5) にんじんの葉腐病（新称・国内新発生）
- (6) なたねの立枯病（新発生）
- (7) チンゲンサイの尻腐病（新発生）
- (8) からしなの葉腐病（新発生・病原の追加）
- (9) トルコギキョウのべと病（新称・国内新発生）
- (10) ラナンキュラスのタネバエ（新寄主）
- (11) カーランツのブドウワタカイガラムシ（新発生）
- (12) ぶどうのホソオビツチイロノメイガ（新寄主）

○新称：これまで正式な名称（病名、害虫の和名）のなかった新たな病害虫の名称提案。

○国内新発生：これまで国内での発生事例がなかった病害虫

○新発生：道内での発生事例がなかった病害、道内に分布が確認されていなかった害虫

○新寄主：道内に分布することが既知である害虫の、新たな作物への加害記録

○病原の追加：既知病害と病徴に違いのない新たな病原の追加

○病名の変更：既知病害の病名が変更され、異なる病名となったもの

○病原の変更：既知病害の病原について再検討され、異なる病原であることが明らかとなったもの

7. 成果の活用策

1) 成果の活用面と留意点

ここに記載した病害虫について、特に今後の発生動向に注意する。また、平成31年度に特に注意を要する病害虫については適切な防除対策を講じる。

2) 残された問題とその対応

8. 研究成果の発表等